

今回は、徒手療法は何をしているか？
ここをテーマにお話していきます。

身体を触れるような刺激、匂い、
音、光などの脳神経に関わる刺激などは、
脳にその情報が送られます。

徒手療法は触覚、振動覚、
圧覚などの刺激を起こすため、
それらは視床を必ず通ります。

その後の経路では、
脳幹網様体、小脳などに伝えられつつ、
二次的に記憶や大脳辺縁系にもリンクします。

よく、
脳による除痛機能について
話をされるときがあります。

マインドフルネスでも起こりえますが、
感覚刺激によりオピオイドなどが
発現されるものもあります。

関節の動きが悪いときに、
関節を動かすと良いことが起こるのですが、
それが脳へ適刺激が入るといいます。

逆に、
脳への適刺激が無い状態が続くと、
脳細胞は気絶状態になります。

例えば、
目に光をあてて瞳孔収縮を見る対光反射で、
収縮状態が急なあと瞳孔収縮が続かない場合は、
対光脳細胞の気絶状態と言えます。

脳細胞の気絶状態を見るのに良い方法は、
振動時の筋力検査をすることです。

振動はある条件が必要ですが、
特に脊柱のどこに振動を与えても
筋力検査で弱化的ときには、
脳細胞の気絶状態を現します。

そうした場合、
無理な徒手療法は禁忌となります。
特に慢性の症状では、よく起こることです。

ですから、私は、
筋力検査を臨床では用います。
検査に関する勉強をやってみても
おもしろいかなとも思っています。